初対面の話者に対する日本人女性の名乗りの談話方略について

——How Japanese Young Women Introduce their Name in Face-to-Face Conversation Setting with Stranger?——

笹川洋子

1　問題の所在

1．1　はじめに

中国人男性「日本人の女性はこちらに話を合わせてくれるので話しやすかった」。

アメリカ人男性「中国人の女性は積極的に話してくれるので、話していてとても楽しい」。

私たちが行った会話調査の参加者の感想である。私たちは普段おしゃべりをほとんど無意識に進めているが、このような会話の進め方に性差や文化差があるのだろうか。本研究では、自己紹介の名乗りの場面に注目し、日本人女性が会話において名乗りの談話方略を、性差・文化差という状況に応じてどう変化させるかを探ってみたい。

まず、性差と会話研究における本研究の位置を確認した上で、調査結果について考察していくことにする。

1．2　会話への関わり方にみられる性差と文化差

ここでは、言語と性差研究に関わる問題のうち、次の2つの点に注目したい。第一点は性差と文化をつなぐ統合的な視座の必要性である。第二は談話方略という場合の、談話や話題設定の問題である。まず、第一の研究の視座について考えてみよう。

一般的に私たちは同性との会話で精神的にリラックスするため、もっとも自然に振る舞うと言われている。そして、女性は女性どうしの会話では協調的に話し合い、男性との会話では受け身的な聞き手にまわってしまう傾向が指摘されている（Tannen,1993,1994等;Fishman,1980:Coate,1993等）[1]。異性間の会話における日本語話者の性差についても同様の報告がある。江原・吉井・山崎（1984）は異性間の日常会話から、男性が女性の会話に「割り込み」を行ったり、無関心を示す「沈黙」を多く用いると述べている（詳しくは James & Clarke, 1993:松田, 1995:参照）[2]。

このように、英語でも日本語でも女性と男性は会話に対する関わり方が違うことが見出されている。しかし、文化という側面から見た場合、この性差は曖昧になる。文化という面から見ると、日本人は対話者に配慮し、協調的に会話を進めるが、アメリカ人は自分の意見を示し、積極的に会話に関わると言われる（Scollon & Scollon,1995,Watanabe,1993,Murata,1994）。つまり、日本人という軸では日本人男性は自己提示的だが、より多様な文化の軸から捉えると、日本人男性は協調的であるとも考えられるのである。現時点では性差と文化差がそれぞれの研究カテゴリーだけで論じられることが多く、統合的な知見は得られていない。議論は保留されたままであると言えよう。

そこで、本研究では、以上のような問題意識を踏まえ、親疎上下の変数を統制した初対面の大学生どうしの会話状況において「日本人女性が日本人女性・日本人男性・中国人女性・中国人男性・アメリカ人女性・アメリカ人男性との対話で、談話方略をどう変化させるか」を観察したいと思う。次に、第二の談話方略のとらえ方について考えていく。

1．3　分析の単位－談話単位の発話交換について

性差と言語に関する先行研究は、同意表現などの言語表現に焦点をあてたものが多いが、同時に多くの研究者は会話をより大きな談話単位で分析することで、性差に関する重要な視点が明らかになるのではないかと示唆的に記している。談話をある内容的なまとまりをもった発話のグループと考えると、話題は談話を取り出す一つの指標となるであろう。例えば、Tannen (1994) は質的な調査を通して、話題への関わり方の観点から、アメリカ人の同性間の会話では、女性はどちらか一方の話題に関わり、協調的に話すが、男性は双方の話題を平等にとりあげ、自分の意見を提示する形で会話に関わると記している。Zimmerman & West (1975) は、男性は女性が話す話題を尊重しないのに対し、女性は男性が話す話題が展開するように協力することを指摘している。同じく英語話者であるニュージーランド人女性と男性の会話を観察した Holmes (1995) でも、女性は積極的な聞き手として話題展開を促進する方略を用いることが明らかにされている。しかし、Holmes の調査では、女性は異性どうしの会話になった場合、一方的に「聞き手」としての役割を担いがちであるという。

本稿でもこのような談話方略という単位から性差を考えるが、ここで問題になるのが話題や話題領域という概念設定の曖昧さである。[3] 確かに、私たちは日常会話において「自分の話題について話したり」、次に「相手の話題に関心を示したりする」というように、話題領域の関与をしばしば意識する。つまり、話題にも「話し手の領域に属する話題」と「聞き手の領域に属する話題」があると考えるのである。しかしながら、先行研究では個々の研究者独自の方法で話題や話題領域が設定されている。これは、会話という現象が多様で広範囲に渡っているためである。そこで、本稿では、話題の切り方と領域の振り分けという、二つの問題が明示的になる自己紹介の名乗りの場面に限り、分析を行いたいと思う。そうすると、これまでの先行研究の結果からは、女性は「聞き手の領域に属する話題（ここでは対話者の名前）」に配慮を示し、男性は「話し手の領域に属する話題（ここでは自分の名前）」を自ら開示していく傾向があると予測できる。

考察の順序としては、まず調査の概要に触れ、次に日本人女性がそれぞれの話者とどう対話するかを観察する。最後に、会話調査の参加者の方略変化を統合的に考え、方略変化と談話領域の関与についての問いへの答えとしたい。

2　調査の方法

調査は「初対面の話者どうしの会話で、ある人が女性と話す場合・男性と話す場合・異文化の話者と話す場合では、コミュニケーション方略がどのように変化するか」について、日本人女性の事例を中心に分析することを目的とした。控え室を別にした大学生インフォマントを調査室に通し、お互いにはじめて会うという状況を設定した。対面で25分間「日本語」で自由に話してもらい、計66組の会話を収録した。(4)

会話では、一人一人のインフォマントが様々な性・文化背景を持った話者と話す会話の組み合わせを考えた。なお、中国人（女性・男性）とアメリカ人（女性・男性）は各話者と「日本語」で話す。インフォマントの人数・属性を次に記す。

日本人女性：大学生9人（以下ＪＦと略記）　日本人男性：大学生4人（以下ＪＭと略記）
中国人女性：大学生3名（以下ＣＦと略記）　中国人男性：大学生3名（以下ＣＭと略記）
アメリカ人女性：大学院生2名他1名（以下ＥＦと略記）
アメリカ人男性：大学院生3名（以下ＥＭと略記）

また、インフォマントの年齢は19才から30代前半。中国語話者は全員日本語堪能であり、アメリカ人英語話者は中級2名（ＥＦ1・ＥＭ1）と日本語に堪能な者4名である。アメリカ人インフォマントの1人をのぞき、日本語学習者はすべて日本の大学、大学院に在学中であった。日本語学習者の日本語会話レベルについてはインタビュー

や収録データをもとに、共同研究者4名で判定している。なお、日本人インフォマントは数カ月以上の海外滞在歴はない。

3　自己紹介の場面における日本人女性（JF）の談話方略の変化について

3．1　名乗りの談話方略

自己紹介の場面で、自分の名前を名乗る方略には、「質問に対する答として名乗る」、「自分から名乗る」という方略がある。また、名前の名乗り方には、次のような三つの発話交換の型が観察できる。なお、（　）内に表示したのは対話相手の方略である。発話者自身の方略は太字で示している。

①「**相手の名前を質問する**→（相手が答えて、名乗る）→**自分から名乗る**」質問解答型の名乗り。

これは＜**質問をする**→（相手が答えて、名乗る）→**自分から名乗る**＞という発話の流れである。対話者側からは＜(質問をされる）→**質問に答えて、名乗る**→（相手から名乗る)＞となる。これは話者が聞き手として相手の話題領域に関わった上で、次に自分の話題領域について話す名乗りの形式であると言えよう。

例1：（日本人女性2の会話）

JF2＝（質問をされる）→**答えて、名乗る**→（相手から名乗る）

JF7＝**質問をする**→（相手が答えて、名乗る）→**自分から名乗る**

↓JF7　2：2お名前は？

↓JF2　2：　　あH田です

↓JF7　3：あ（・）Hと申します。よろしくお願いします　　hhh（笑い）

ＪＦ２　３：　　Ｈさんよろしくお願いしますｈｈｈ（笑い）

②「**相手の名前の質問**→（相手が答えて、名乗る＆質問を返す）→**対話者が答えて、名乗る**」

質問交換型の名乗りである。これは**＜質問をする**→（相手が答えて、名乗る）＆（相手が質問を返す）→**答えて名乗る＞**、対話者の側からは＜（相手が質問をする）→**答えて、名乗る＆質問を返す**→（相手が答えて、名乗る）＞という発話交換が見られる。つまり、話者どうしは聞き手としてお互いに相手の話題領域に関わりあう。

例２：（日本人女性４の会話）

ＪＦ４＝（相手が質問をする）→**答えて、名乗る＆質問をする**→（相手が答えて、名乗る）

ＪＦ８＝**質問をする**→（相手が答えて、名乗る）＆（相手が質問をする）→**答えて、名乗る**

→ＪＦ８　１：はじめましてｈｈｈｈｈｈｈｈｈ（笑い）えっお名前は？

→ＪＦ４　１：　　はじめましてｈｈｈ（笑い）　　Ｈ・Ｙと言います

→ＪＦ８　２：　　私はＩです。Ｉ・Ｍです

→ＪＦ４　２：あっお名前は

③「**自分の名の提示**→（対話相手による名の提示）」自己提示型の名乗り。

これは**＜自分から名乗る**→（相手から名乗る）＞、対話者の側からは＜（相手から名乗る）→**自分から名乗る＞**という発話交換である。この名乗りの形式では、話者は自分の話題領域について開示しあう。

例３：（日本人女性５の会話）ＪＦ５＝（相手から名乗る）→**自分から名乗る**

ＪＦ３＝**自分から名乗る**→（相手から名乗る）
Ｆです。よろしくお願いします
↓ＪＦ５３：
↓ＪＭ３３：Ｓです。よろしくお願いします

それでは、さらに対話相手による談話方略の傾向について見ていくことにしよう。

３．２　日本人女性どうしの自己紹介

日本人女性どうしの会話では、二種類の自己紹介の談話方略が観察された。

＜日本人女性どうしの名乗りの談話方略＞

話者／対話者	対日本人女性
ＪＦ１	**質問をする**→（相手が答えて、名乗る）→自分から名乗る
ＪＦ２	（相手が質問をする）→**答えて、名乗る**→（相手から名乗る）
ＪＦ３	（相手が質問をする）→**答えて、名乗る**→（相手から名乗る）
ＪＦ４	（相手が質問をする）→**答えて、名乗る＆質問を返す**→（答える＝名乗る）
ＪＦ５	（相手が質問をする）→**答えて、名乗る**→（相手から名乗る）
ＪＦ６	**質問をする**→（相手が答えて、名乗る＆質問を返す）→**答えて、名乗る**

第一の方略は、どちらかが「お名前を伺っていいですか」等の質問をし、相手からの名乗りがあった後で、自分の名前を知らせる「質問解答型」の名乗りである。この形式の自己紹介は、ＪＦ１．ＪＦ２．ＪＦ３．ＪＦ５の会

話で見られる。（例1参照）

二つめの方略は、どちらかが「お名前は？」と質問をし、相手がそれに答えて名乗り、さらに質問を返し、最初の質問者が答えるという、いわゆる「質問交換」の形をとる自己紹介の方略である。この形式は先に述べた「質問解答型」の変形とも考えられる。つまり、質問に対して名乗る過程までは、同じである。「質問交換型」では、答えた側が質問するという流れが加わる、つまり聞き手として話題に関わる配慮がより丁寧に示されているのである。相手により、容易に「質問解答型」に移行する可能性を持ったパターンだと言えよう。これはＪＦ４とＪＦ６の会話に見られる。（例2参照）

日本人女性どうしの会話で共通しているのは、必ず質問が引き金となって、互いの名乗りが始まるということであった。つまり、日本女性どうしのすべての会話で、相手の話題領域に関わる聞き手としての配慮が示されているのである。

3．3　日本人女性と日本人男性との自己紹介

日本人女性と日本人男性の会話では、二種類の自己紹介の言語方略が観察される。また、観察された談話5例中4例で日本人男性が名乗りの談話を主導していた。

＜日本人男性に対する日本人女性の名乗りの談話方略＞

話者／対話者	対日本人男性
ＪＦ１	**質問をする**→（答えて、名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ２	（相手が質問をする）→**答えて、名乗る**→（相手から名乗る）
ＪＦ３	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**

ＪＦ４	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ５	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ６	？（データなし）

第一の方略は、どちらかが「お名前を伺っていいですか」等の質問をし、相手からの名乗りがあった後で、自分の名前を知らせる「質問解答型」である。この形式の自己紹介は、ＪＦ１・ＪＦ２の会話で見られる。また、質問者となっているのはＪＦ１で、ＪＦ２は相手（ＪＭ１）からの質問に答えている。この方略では相手の話題領域に聞き手として関わる配慮が示されると考えられる。

例４：（日本人女性１の会話）質問解答型

ＪＦ１＝**質問をする**→（答えて、名乗る）→**相手から名乗る**

ＪＭ１＝（質問をされる）→**答えて、名乗る**→（相手から名乗る）

ＪＭ１１：ｕｈｕｈ（笑い）　こんにちはｕｈｈｈｈ（笑い）

ＪＭ１１：　　こんにちは

→ＪＦ１２：お名前を伺っていいですか

→ＪＭ１２：　　はいＯです

→ＪＦ１３：Ｏさん。Ｋといいます。よろしくお願いします　　Ｋです

ＪＭ１３：　　はい？　　あーはい

第二の方略は、お互いが自分の名前を言い合う、自己提示の形をとる名乗りの方略である。これは自分の話題領域を積極的に開示する形式であり、日本人女性どうしの会話に見られなかったものである。この名乗りはＪＦ３・ＪＦ４・ＪＦ５の会話に見られる。最初に自己提示をしているのはどの会話も男性の側であった（例３参照）。また、女性どうしの会話で見られた質問交換による名乗りは、日本人女性と日本人男性の会話には現れなかった。なお、ＪＦ６の名乗りの場面は記録テープでは観察できなかった。

３．４　日本人女性と中国人女性との自己紹介

日本人女性と中国人女性の会話では質問交換型の名乗りは見られず、自己提示型が６例中５例観察された。なお、そのうち４例が中国人女性が主導する自己提示であった。

＜中国人女性に対する日本人女性の名乗りの談話方略＞

話者／対話者	対中国人女性
ＪＦ１	**自分から名乗る**→（相手から名乗る）
ＪＦ２	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ３	**自分から名乗る＆質問をする**→（答えて、名乗る）
ＪＦ４	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ５	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ６	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**

例５：（日本人女性４の会話）自己提示型

ＪＦ４＝（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＣＦ２＝**自分から名乗る**→（相手から名乗る）

ＪＦ４　１：はじめましてｈｈｈ（笑い）ｈｈｈｈｈ（笑い）　Ｈさん？
→ＣＦ２　１：　はじめましてｈｈｈｈｈ（笑い）Ｈと申します　はい
→ＪＦ４　２：あっあたしＨ田とー言います　ｈｈｈ（笑い）　ｈｈｈｈｈ（笑い）
ＣＦ２　２：　あっＨ田ｈｈｈ（笑い）よく分かりますｈｈｈｈｈ（笑い）

自己提示型ではない次のような例が１例あったが、ここでは日本人女性が自己提示をした後、相手の中国人女性に対して名乗りの依頼を行っている。名乗りの依頼はこの例だけに観察された。

例６（日本人女性３の会話）提示依頼型

ＪＦ３＝**自分から名乗り、名乗りの依頼をする**→（答えて、名乗る）
ＣＦ２＝（相手が名乗り、次に名乗の依頼をする）→**答えて、名乗る**
→ＪＦ３　１：よろしくお願いします。私はＴと申します　お名前をお願いします
ＣＦ２　１：よろしくお願いします。　はい
ＪＦ３　２：　Ｈさん、漢字は何だろう、花？
→ＣＦ２　２：はい、私はＨと申します。

中国人女性との対話で共通しているのは、すべての日本人女性が、自分の話題領域の開示を行う自己提示型の名乗りを行っているという点であった。先に記したように、日本人女性同士の会話では、日本人女性は全員、質問によって名乗りを行っていた。また、第二言語学習者と母語話者での会話では、母語話者が会話を主導する傾向が強いと言われるが、この調査の会話では、6例中4例で第2言語学習者である中国人女性が名乗りの談話を主導している。

3．5　日本人女性と中国人男性との自己紹介

中国人男性との会話では、自己提示型が3例、質問解答型が1例、自己提示型の変形（ＪＦ２：**一方の名乗り**→（いろいろな話題の挿入）→**相手の名乗りと質問**→**再度名乗る**）が1例観察された。また、談話の5例中4例で中国人男性が談話を主導している。

＜中国人男性に対する日本人女性の名乗りの談話方略＞

話者／対話者	対中国人男性
ＪＦ１	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ２	（相手から名乗る）→いろいろな話題の挿入→**自分から名乗る**
ＪＦ３	**自分から名乗る**→（相手から名乗る）
ＪＦ４	？（データなし）
ＪＦ５	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ６	（質問をされる）→**答えて、名乗る**→（相手から名乗る）

自己提示型としては、次のような例があげられる。

例7：（日本人女性5の会話）自己提示型

ＪＦ５＝**自分から名乗る**→（相手から名乗る）

ＣＭ３＝（相手から名乗る）→**自分から名乗る**

↓ＪＦ５　１：はじめまして　　えっとＦと言います　　Ｆ

↓ＣＭ３　１：　　はじめまして　　あえっとＦと申します。Ｆ　はい

次に質問解答型の例を見てみよう。

例8：（日本人女性6の会話）質問解答型

ＪＦ６＝（相手が質問をする）→**答えて、名乗る**→（相手から名乗る）

ＣＭ３＝**質問をする**→（答えて、名乗る）→**自分から名乗る**

↓ＪＦ６　１：こんにちは　　（・）はい　　あっえっとＧと申します

↓ＣＭ３　１：　　こんにちは　　お名前は？　　えっ？

ＪＦ６　２：Ｇですｈｈｈ（笑い）

↓ＣＭ３　２：　　漢字でどう

（しばらくGの姓名の字の話題が続く）

JF6 6：　Fさん　どういう漢字が

CM3 6：あそうなんですか。あの（・）Fと申します　はい　あhh（笑い）

また、次のような変形型の名乗りもあった。

例9：（日本人女性（JF2）の会話）変形型

「CM1の名乗り→（いろいろな話題の挿入）→JF2の自分からの名乗りと質問→CM1が答えて、再度名乗る」

JF2 1：　こんにちは　はじめまして

CM1 1：こんにちは　はじめまして

JF2 2：　あっそうなんですか

CM1 2：ええ中国からのC、Cですけども

JF2 3：　よろしくお願いします

CM1 3：よろしくお願いします

（大学名や専門、年齢、出身地など様々な話題が挿入される）

JF2 42：あのなんかお名前まだ　あたしH．Hと申します　はい

CM1 42：　あ　あっそうですか

JF2 43：　えっ？　hhh（笑い）あっそうですahahhhh（笑い）そうです　お名前は

CM1 43：H．SのH　　H．SのH　　hhhh（笑い）
JF2 44：　　あーCさん。へえー　　ahahahhh（笑い）
CM1 44：C。C．TのCです　　hehehehhhh（笑い）

中国人男性の対話では、自己提示型の名乗りが5例中4例あり、そのうちの3例が日本語学習者である中国人男性からの名乗りであった。

3．6　日本人女性とアメリカ人女性との自己紹介

アメリカ人女性の自己紹介場面は4例しか観察できなかった。そのうち2例は日本人女性の会話で多く観察された質問交換型による名乗りであり、他の2例は日本人女性からの自己提示型であった。質問交換型は受け手の反応によって、質問解答型に移行することは、先に述べたが、このアメリカ人女性との対話の2例でも、受け手となっているのは日本人女性であった。言わば、この場合の質問交換型も日本人女性が関わることによって作り出された談話形式であると言えよう。また4例中2例でアメリカ人女性が談話を主導している。

＜アメリカ人女性に対する日本人女性の名乗りの談話方略＞

話者／対話者	対アメリカ人女性
JF1	（相手が質問をする）→**答えて、名乗る**→（相手から名乗る）
JF2	（相手が質問をする）→**答えて、名乗る＆質問をする**→（答えて、名乗る）
JF3	**自分から名乗る**→（相手から名乗る）
JF4	**自分から名乗る**→（相手から名乗る）

ＪＦ５	？　（データなし）
ＪＦ６	？　（データなし）

まず質問交換型の例である。

例10：（日本人女性（ＪＦ２）の会話）質問交換型

ＪＦ２＝（相手が質問をする）**↓答えて、名乗る＆質問をする↓**（答えて、名乗る）

ＥＦ１＝**質問をする↓**（答えて、名乗る＆質問を返す）**↓答えて、名乗る**

↓ＥＦ１　１：こんにちはーｈｈ（笑い）えとお名前は　　Ｈさんｈｈｈ（笑い）

↓ＪＦ２　１：　　こんにちは　　名前はＨ．Ｈです　　ｈｈｈ（笑い）

↓ＥＦ１　２：　　え、Ｍです　　うん　はーｈｈｈ（笑い）

↓ＪＦ２　２：お名前は　　Ｍさん　　あ　ｈｈｈ（笑い）へえー

次に自己提示型の名乗りであるが、これは日本人女性どうしの会話には見られなかったものである。

例11：（日本人女性（ＪＦ３）の会話）自己提示型

ＪＦ３＝**自分から名乗る**（相手から名乗る）

ＥＦ２＝（相手から名乗る）**自分から名乗る**

ＪＦ３　４：私はＴと申します　　Ｒさん

ＥＦ２　４：　　あ、こんにちは私はＲと申します　　そうです

３．７　日本人女性とアメリカ人男性との自己紹介

アメリカ人男性との会話では、日本人女性は全員自己提示型の名乗りを行っていた。そして、最初の質問がアメリカ人男性からの談話は5例、日本人女性(JF吾)からの談話は1例であった。英語話者の会話研究で明らかにされているように、アメリカ人男性は自ら話題を切り出し、自己提示的に会話に関わる傾向が観察できる。

＜アメリカ人男性に対する日本人女性の名乗りの談話方略＞

話者／対話者	対アメリカ人男性
ＪＦ１	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ２	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ３	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ４	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**
ＪＦ５	**自分から名乗る**→（相手から名乗る）
ＪＦ６	（相手から名乗る）→**自分から名乗る**

６例中５例でアメリカ人男性から自己提示型の名乗りが見られる。

例12：（日本人女性（ＪＦ６）の会話）自己提示型

ＪＦ６＝（相手から名乗る）→**自分から名乗る**

ＥＭ３＝**自分から名乗る**→（相手から名乗る）

ＪＦ６　１：ではよろしくお願いします

ＥＭ３　１：　　こちらこそ。あのＪ．Ｋと申しますけど

→ＪＦ６　２：あっ、とＧと申します　　っとＧです。　　えとお

→ＥＭ３　２：　　もう一回　　Ｇ。字は何ですか。

次の例では、日本人女性からの自己提示型の談話が観察された。

例13：（日本人女性（ＪＦ５）の会話）自己提示型

ＪＦ５＝**自分から名乗る**→（相手から名乗る）

ＥＭ１＝（相手から名乗る）→**自分から名乗る**

ＪＦ５　１：はじめまして　　えっと、Ｆと言います

ＥＭ３　１：　　はじめまして　　あ、あのＪ．Ｋと申しますけど

アメリカ人男性は6例中5例で、自分から自己提示型の名乗りを行っている。そのため、日本人女性は、日本人

女性どうしでは質問により名乗りを行っていたが、全員自己提示型の方略に変えて、名乗りを行っている。日本人女性の対話相手による変化について、さらに考えてみよう。

4　日本人女性の名乗りの談話方略について

4．1　日本人女性の名乗りの談話の方略変化

調査データからは次のような結果が観察できた。

（1）　日本人女性は、日本人女性が相手の会話では、質問解答型「**質問をする**→（相手が答えて名乗る）→**自分から名乗る**」か、質問交換型「**質問をする**→（相手が答えて、名乗る＆質問を返す）→**答えて、名乗る**」の名乗りの談話方略をとる。自己提示型の名乗りの方略の使用は皆無であった。日本人女性どうしの会話では、全員の名乗りが質問によって行われたことがわかる。

（2）　日本人女性の、日本人女性以外の話者、すなわち中国人女性、アメリカ人女性、日本人男性、中国人男性、アメリカ人男性との会話では、自己提示型「**自分から名乗る**→（相手から名乗る）」か「（相手から名乗る）→**自分から名乗る**」が現れる。特に、アメリカ人男性が相手の時には全員が、中国人女性に対してもほぼ全員が自己提示型の名乗りに、名乗りの方略を変化させている。また、中国人男性、日本人男性が対話相手の時も自己提示型をとることが多い。

（3）　日本人女性間の対話で見られた質問交換型は、アメリカ人女性との対話でも1例見られる。これの対話形式は、先に触れたように受け手が質問を返さなければ、質問解答型「質問をする→（相手が答えて名乗る）→自分から名乗る」になる。この場合も、アメリカ人女性の質問に対して、日本人女性が名乗り、質問を返している。そして、この質問交換型の方略は、日本人女性どうしの会話と上記の1例以外には現れなかった

ことから（表7、表8参照）、この調査では、日本人女性だけに観察された名乗りの談話方略であることになる。

表7は対話相手による日本人女性の名乗りの方略変化をまとめたものである。なお、自分からの質問解答型を「◎」、相手からの質問解答型を「○」、自分からの質問交換型を「Q」、相手からの質問交換型を「q」、自分からの自己提示型を「■」、相手からの自己提示型を「□」で表している。

＜表7－日本人女性の名乗りの談話＞

話者／対話者	JF1	JF2	JF3	JF4	JF5	JF6
対日本人女性	◎	○	○	q	○	Q
対日本人男性	◎	○	□	□	□	?
対中国人女性	■	□	■◎	□	□	□
対中国人男性	□	□	■	?	□	○
対アメリカ人女性	○	q	■	■	?	?
対アメリカ人男性	□	□	□	□	■	□

次に、日本人女性の方略変化を考えるために、日本人女性以外の話者が用いた談話方略を見てみよう。日本人以外の話者の談話方略をまとめたものが＜表8＞である。自己提示方略が多いことがわかる。特に、中国人女性とアメリカ人男性は、名乗りのほとんどの場面で自己提示方略を用いている。また、アメリカ人男性はほとんどの話者との対話で、名乗りの談話を主導しているが、日本人男性との対話の時は、すべての話者が日本人男性に話題を主

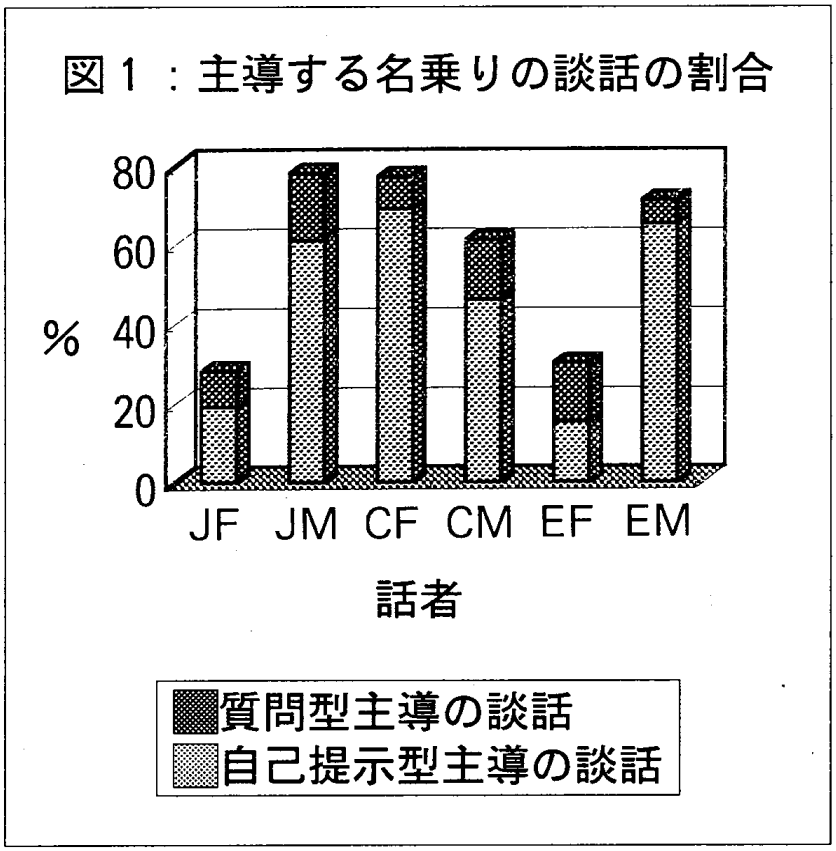
導されている。母語話者でありながら日本人女性は、ほとんどの会話において、アメリカ人男性に名乗りを主導されているのとは対照的である。次に、この談話の主導について考えよう。

〈表8－名乗りの談話方略〉

自分からの質問解答型「◎」、相手からの質問解答型「○」、自分からの質問交換型「Q」、相手からの質問交換型「q」、自分からの自己提示型「■」、相手からの自己提示型「□」

話者／対話者	日本人女性 (JF)		日本人男性 (JM)		中国人女性 (CF)		中国人男性 (CM)		アメリカ人女性 (EF)		アメリカ人男性 (EM)	
JM1	◎	○	◎	□	?	□	□	■	◎	■	■	−
JM2	■	■	□	■	■	□	■	■	?	■	■	−
JM3	■	■	■	□	□	■	■	■	?	■	■	−
CF1	□	■	?	■	−	■	−	■	■	■	?	?
CF2	■	■	□	■	−	■	−	■	■	■	■	■
CF3	■	■	■	■	−	■	−	■	◎	■	■	■
CM1	■	■	■	■	−	■	−	■	◎	■	■	■
CM2	□	■	□	□	−	□	−	□	■	□	□	□
CM3	■	■	□	□	−	□	−	□	?	□	□	□
EF1	◎	Q	○	□	?	□	○	○	−	○	○	○
EF2	□	□	□	□	■	□	■	□	−	□	□	□
EF3	?	?	?	?	■	○	■	■	−	■	□	□
EM1	■	■	□	■	□	?	□	■	◎	□	−	−
EM2	■	■	□	□	■	□	■	□	■	□	−	−
EM3	□	■	□	□	■	■	□	□	■	□	−	−

どちらが先に名乗りの談話に入るかという談話の主導性は、方略変化に大きく関わってくる。それは、相手が談話を主導した場合、相手の談話方略に応じて受け手の方略も決まってくるからである。△図1▽は話者ごとの名乗りの主導談話の割合である。[5] 他の話者と比較して、母語話者である日本人女性（28％）と、アメリカ人女性（31％）は主導する談話の割合が低い。[6] 反対に、名乗りの談話を主導しているのが、日本人男性（78％）、中国人女性（77％）、アメリカ人男性（71％）である。中国人男性は談話のうち62％を主導している。



△図1　主導する名乗りの談話の割合▽

これまで、日本人男性は異文化というカテゴリーで考えた場合、日本人女性と同じように協調的に会話を進めるのではないかという指摘もあったが、名乗りの談話の主導傾向に限ると、日本人女性とは対照的な傾向が観察される。つまり、従来、日本人男性はアメリカ人話者と比較すると協調的であると言われているが、この調査では、アメリカ人男性と同じように自己提示型の発話方略をとる。言いかえれば、日本人、アメリカ人というより、日本人とアメリカ人の男性が自己提示型であり、日本人とアメリカ人の女性が協調的に会話に関わっている。中国人女性と中国人男性の性差は少なく、双方が自己提示型の方略をとるという結果になった。

ここまで、日本人女性の用いる名乗りの談話方略を探ってきたが、この談話方略にはどのような意味があるのだ

ろうか。次に、話題領域の視点からこの問題を考えてみたい。

4．2　話題領域から考えた名乗りの談話方略の意味

本稿では、自分の名前という話題について話題領域を設定した。先に触れたように、自己提示型の名乗りは「自己の話題領域に属する事柄について、自分から話す」ことである。質問↓解答型の名乗りは「相手の話題領域に属する事柄について、質問する」↓「相手の話題領域の情報を得る」↓「自己の話題領域に属する事柄について、自分から話す」という一連の行為であろう。また、質問交換型の名乗りでは互いに「相手の話題領域に属する事柄について、質問しあう」。いいかえれば、自己提示型は「自分の話題を積極的に提供し、話す」タイプであり、質問↓解答型は「まず聞き手として相手の話題に関わり、次に自分から自己の話題を開示する」タイプである。さらに、質問解答型への移行可能性を秘めた質問交換型では、聞き手として「平等に相手の話題に関わる配慮を示す」という意識が言語行為に反映されるのではないだろうか。

そうすると、これまで示してきた調査データ〈表7・表8〉からは次のようなことが考えられよう。まず、日本人女性の会話では、どの会話でもまず相手の話題領域に関わる聞き手としての配慮が示されていることが分かる。日本女性にとっては、相手の話題に配慮することが、意識されているわけである。(7) 反対に、日本人男性、アメリカ人男性と中国人女性の名乗りでは自己提示型がとられているが、彼らの会話では、自分の話題を積極的に開示していくことで会話に対する配慮が示されていると考えられる。

5　おわりに

本稿では、初対面の話者どうしの会話における名乗りの場面に限って、日本人女性の談話方略を観察した。日本

人女性は全員、質問が引き金となる名乗りを行っていた。特に、相手の質問に答えた後に、相手に質問を返すという、いわゆる質問交換型の談話方略は日本人女性にだけに見られた。この談話方略は、他の話者には観察されなかったものである。日本人女性が相手の話題に関して、聞き手としての配慮を示す象徴的な例であろう。日本語教育では、名乗りは初回にとりあげられるトピックである。ごく日常的な生活場面での談話にも、興味深い談話形態の多様性があることがわかる。

会話テープを聞くと、名乗りに関わらず、話者の話題への関わり方には言語文化的な違いがあるということを感じる。そうした談話方略の多様性をさらに明らかにするには、様々な角度から、さまざまな場面における話題の関わり方を観察することが必要であろう。

〈注〉

(1) アメリカ人女性の会話を観察した Tannen (1993,1994等) や Fishman (1980) Coate (1993) 等の知見はほぼ一致している。女性は会話で気遣いを示し、援助しあい、協調的にディスコースに関わるが、一方男性は積極的に自己を提示する形で会話に参加する傾向がある。そして異性間の会話では、男性が会話を占有し、女性の話に割り込み、その結果、女性は男性を援助するための短い応答に終始すると言われる。

(2) Watanabe (1993) は日本人の議論の場では、女性が話を切り出すことが多く、これを弱い立場にいる女性が「フェイスの脅し」を受けとめるためであると解釈する。

(3) 話題設定については、会話分析研究では、話題が分断されたものではなく、ひと続きの連続したものではないかという議論もある。私見であるが、東京から関西に移って感じたことは、関西の方が会話の話題を共有する、つまり、会話の参考者が共同で会話を盛り上げるという意識が高いことである。東京では、それぞれの話題領域内を尊重するという意識が強かったように思われる。話題については小田切 (1995) 参照。

(4) 〈調査期日〉平成6年9月26日 (月) から10月1日 (土) 〈調査会場〉都内の某大学。4教室を調査会場として借用。うち2部屋はインフォマントの控え室、1部屋はビデオカメラを設置した調査室、1室はモニターを置き、調査者が会話状況を観察する部屋にあてた。2人の話

者は、マイクロフォンを置いた小さいテープルをはさんで、椅子に座り、対面する形で会話をおこなった。6日間で66組、計27時間30分の会話を収録し、そのうち1組あたり20分、計22時間分の会話を資料とした。

（5）〈主導する名乗りの談話の割合〉　主導する談話／全談話数

参加者／方略	日本人女性（9名）	日本人男性（3名）	中国人女性（3名）	中国人男性（3名）	アメリカ人女性（3名）	アメリカ人男性（3名）
自分から名乗る	6／32（19%）	11／18（61%）	9／13（69%）	6／13（46%）	2／13（15%）	11／17（65%）
質問をする	3／32（9%）	3／18（17%）	1／13（8%）	2／13（15%）	2／13（15%）	1／17（6%）
主導談話	9／32（28%）	14／18（78%）	10／13（77%）	8／13（62%）	4／13（31%）	12／17（71%）

（6）一般的に母語話者は第二言語話者に対して、イニシアティブをとると言われる。日本人女性は談話の主導に消極的で、例えばJF2はどの会話でも受け手になっている。しかし、彼女たちすべてが他の話者との対話で受け手に回っているわけではない。日本人との対話では名乗りの談話を主導しているのが、JF1とJF6である。JF1は日本人女性・日本人男性と中国人女性以外の話者には話題を主導されているし、JF6は日本人女性以外の話　者には話題の主導を任せている。一方、JF3、JF4、JF5は日本人女性・日本人男性との会話では相手に主導を任せている話者であるが、第二言語話者に対しては名乗りを主　導している。この名乗りの談話では、JF3、JF4、JF5が母語話者の第2言語話者に対する調整を行っていると考えられる。

〈日本人女性の主導する名乗りの談話の割合〉　主導する談話／談話数　＊対話中主導する談話が多い

	JF1	JF2	JF3	JF4	JF5	JF6
日本人（2例）	＊2／2	0／2	0／2	0／2	0／2	＊1／1
留学生（4〜3例）	1／4（CF）	0／4	＊3／4（CF．CM．EF）	＊1／3（EF）	＊2／3（CM．EM）	0／3

（7）佐々木由美（1998）にも同様の指摘がある。

<引用文献>

Coates, Jennifer 1986 Women, Men and Language :A Sociolinguistic Account of Sex Differences in Language. Longman, =1993

Edelsky,Carole 1981 Who's Got the Floor? Language in Society, 10,Pp.383-421

Edelsky,Carole 1981 Who's Got the Floor? Language in Society, 10,Pp.383-421

江原由美子・好井裕明・山崎敬一 1984「性差別のエスノメソドロジー：対面的コミュニケーション状況における権力装置」現代社会学, 10,No.1,Pp.143-176

Fishman, Pamela M. 1980 Conversational Insecurity. In Giles, H., Robinson, W.P. and Smith, P.M. (Eds.) Language: Social Psychological Perspectives. Pergamon Press, Oxford, Pp.127-132.

Holmes Janet 1995 Women, Men and Politeness. Longman

James, Deborah and Clarke, Sandra 1993 Women, Men, and Interruptions :A Critical Review. In Deborah Tannen (Ed.) Gender and Conversational Interaction. Oxford University Press., Pp.231-280

女性と異文化コミュニケーション研究会 1995『言語的コミュニケーション方略に関する性差の異文化間比較研究』東京女性財団平成6年度助成研究報告書

松田美佐 1995「微細な権力実践としての割り込み」女性と異文化コミュニケーション研究会（編）東京女性財団平成6年度助成研究報告書 Pp.14-23.

Murata, Kumiko 1994 Intrusive or Cooperative? A Cross-Cultural Study of Inter-ruption. Journal of Pragmatics, 21, No.4, Pp.385-400

Mynard, Senko＝泉子・K・メイナード 1993 会話分析 くろしお出版

小田切由香子 1995「異言語文化及び男女間コミュニケーションにおける話題転換上の特徴」女性と異文化コミュニケーション研究会（編）東京女性財団平成6年度助成研究報告書 Pp.48-63.

Ribeiro T.Branca 1994 Coherence in Psychotic Discourse. Oxford University Press.

佐々木由美 1998「初対面の状況における日本人の情報要求の発話」異文化間教育,12,Pp.110-127.

Scollon.R and S.Scollon 1995 Intercultural Communication. Blackwell

Tannen,Deborah 1993 Framing in Discourse. Oxford University Press.

Tannen,Deborah 1994 Gender and Conversational Interaction. Oxford University Press.

Watanabe, S. 1993 Cultural Differences in Framing : American and Japanese Groupe Discussions. In Tannen, Deborah (Ed.) Framing in Discourse. Oxford.,Pp.176-209

West, Candance and Garcia, Angela 1988 Conversational Shift Work : A Study of Topical Transitions Between Women and Men. Social Problems. 35, No.5,Pp.551-575

Zimmerman,Don H.and West,Candance 1975 Sex Roles,Interruptions and Silences in Conversation. In Barrie Thorne and Nancy Henley (Eds.) Language and Sex : Differernce and Dominance. Newbury House Publishers Inc., Pp.105-129

謝辞：この調査は平成6年度東京女性財団の研究助成を受けました。調査にご協力いただいた東京女性財団、東京工業大学仁科喜久子先生、調査に参加してくださった方々、テープを書き起こして下さった青木さんにお礼を申し上げたいと思います。